

# 白内障手術の

- 難症例
- レンズ選択
- 考え直す周術期対応



座長

**大木 孝太郎** 先生  
大木眼科 院長



最近の白内障手術で特筆すべき事は、国産眼内レンズの台頭である。レンズの品質のみならず、プリロード型のインジェクターの完成度は海外製品を凌駕し、非常に使用しやすい。

本セミナーで演者らがとりあげたアバンシィは、質的な面で2つの個性がある。まず光学部の透明度が高く術後のグリスニングが極めて少ないため、眼底病変を持つ症例の白内障術後の診療には極めて有用である。さらに、独自の非球面設計がもう一つの個性であろう。国内市場のほとんどのレンズが非球面レンズとなり、かつて付加価値の一つとされた非球面性に付加価値の言葉はあてはまらないが、独自の非球面設計はレンズ選択のポイントになる。それらを含めた難症例への対応を飯田先生に、眼内レンズ選択を森井先生に解説いただき、最後にレンズ以外の術中と周術期について私見を述べさせていただく。

日時

2019年10月26日(土)  
7:45~8:45

会場

第10会場  
グランドプリンスホテル京都  
B2F プリンスホール1

## 難症例に対する白内障治療戦略 ～アバンシィ3ピースの有用性～

講演1

**飯田 嘉彦** 先生  
北里大学 眼科 専任講師



## IOL 選択のコツ 球面収差からのアプローチ

講演2

**森井 香織** 先生  
あさぎり病院 眼科部長



## 周術期と術中、私の変化

講演3

**大木 孝太郎** 先生  
大木眼科 院長

